

## 逆算して生きる

### [ヤコブの手紙 5章 7～20節]

兄弟たち、主が来られるときまで忍耐しなさい。農夫は、秋の雨と春の雨が降るまで忍耐しながら、大地の尊い実りを待つのです。あなたがたも忍耐しなさい。心を固く保ちなさい。主が来られる時が迫っているからです。兄弟たち、裁きを受けないようにするためには、互いに不平を言わぬことです。裁く方が戸口に立っておられます。兄弟たち、主の名によって語った預言者たちを、辛抱と忍耐の模範としなさい。忍耐した人たちは幸せだと、わたしたちは思います。あなたがたは、ヨブの忍耐について聞き、主が最後にどのようにしてくださったかを知っています。主は慈しみ深く、憐れみに満ちた方だからです。わたしの兄弟たち、何よりもまず、誓いを立ててはなりません。天や地を指して、あるいは、そのほかどんな誓い方によってであろうと。裁きを受けないようにするために、あなたがたは「然り」は「然り」とし、「否」は「否」としなさい。あなたがたの中で苦しんでいる人は、祈りなさい。喜んでいる人は、賛美の歌をうたいなさい。あなたがたの中で病気の方は、教会の長老を招いて、主の名によってオリーブ油を塗り、祈ってもらいなさい。信仰に基づく祈りは、病人を救い、主がその人を起き上がらせてくださいます。その人が罪を犯したのであれば、主が赦してください。だから、主にいやしていただくために、罪を告白し合い、互いのために祈りなさい。正しい人の祈りは、大きな力があり、効果をもたらします。エリヤは、わたしたちと同じような人間でしたが、雨が降らないようにと熱心に祈ったところ、三年半にわたって地上に雨が降りませんでした。しかし、再び祈ったところ、天から雨が降り、地は実をみのらせました。わたしの兄弟たち、あなたがたの中に真理から迷い出た者がいて、だれかがその人を真理へ連れ戻すならば、罪人を迷いの道から連れ戻す人は、その罪人の魂を死から救い出し、多くの罪を覆うことになると、知るべきです。

### [1] キリスト者と「待望」

今日で「ヤコブの手紙」を一緒に聞いていく最後の週になります。8月に入りますと、旧約聖書の「エゼキエル書」を味わいます。毎年大体8月から11月までは旧約聖書の箇所になりますね。これもまた意味があることだと思います。救い主イエス・キリストをお迎えする準備の年月（つまり旧約聖書）と言うのは、新約聖書に比べて本当に長い年月であったのですよね。私たちはちょっと待たされると「遅い」って心穏やかでなくなってしまう時がありますが、その点旧約の人々の信仰と言うのは、私たち（私）のようにせっかちではありません

せんね。一年や二年ではない、何世代も何世代もというスケールでメシアを待望して生きていたのねすね。…「待つ」「待望する」というのは、信仰にとっても本質的なこと、とても大事なことなのだなあということを、旧約の民や預言者の姿から学ばされることは大きいと思います。

新約の時代に生きる私たちも待望しています。この歴史が完成する日がやがてやってくることを。それは、死んでお甦りになった主イエスが、今は聖霊を注がれる方として天におられますけれども、そしていつかは分かりませんが、もう一度地上においでになる(再臨)その時が必ず来るのだと、主ご自身も証しをしておられるのですね。キリスト者とは、そのことに望みを抱いている者たちです。これはこの世のあらゆる矛盾が消え、「古いものは過ぎ去り、すべてが新しくなる」時、ヨハネ黙示録の言葉を借りれば「もはや死も悲しみも嘆きもなく、主ご自身が私たちの涙をぬぐって下さる」日だ、と言うのです。

## [2] 生ける神様との関わりの中で

このことを信じ続けることは簡単なことではななかもしれません。信仰者たちの中にも、そんな彼岸なことを信じていくよりも、世直しし、社会改革を進めることの方がクリスチャンとして大事なことだ、現実的なことだという人々もおります。今苦しんでいる人々を助けないでどうする？ もっともな意見に聞こえます。しかし、今の世界の私たちにも、聖書はある意味、力が抜けるようなことを語っているのですね。今日はヤコブの手紙の最後の第5章ですが、1～6節迄の所で、お金(富)の空しさということ語った後で、「兄弟たち、主が来られるときまで忍耐しなさい」というのですね。今は忍耐の時、耐え忍ぶ時だ、というのです。いつまで？「主が来られる時まで」と言います。

つまり、これがクリスチャンたちのゴールでもあると同時に、今の世を生きる「スタート」の号令でもあるのですね。オリンピックが始まりましたけれども、水泳にしても陸上にしても、選手は「ゴール」があるから頑張れるんですよ？ つまり、このゴールから逆算して生きている。だから、今コンディションを整えるという努力・忍耐もする。そのことをヤコブも教会の人々に語っていると思います。7節の後半からはこう語っていました。

「農夫は、秋の雨と春の雨が降るまで忍耐しながら、大地の尊い実りを待つのです。あなたがたも忍耐しなさい。心を固く保ちなさい。主が来られる時が迫っているからです。兄弟たち、裁きを受けないようにするためには、互いに不平を言わぬことです。裁く方が戸口に立っておられます」。

そしてヤコブは旧約聖書の特にヨブのことを引き合いに出しています。

「兄弟たち、主の名によって語った預言者たちを、辛抱と忍耐の模範としなさい。忍耐した人たちは幸せだと、わたしたちは思います。あなたがたは、ヨブの忍耐について聞き、主が最後にどのようにしてくださったかを知っています。主は慈しみ深く、憐れみに満ちた方だからです。」

主なる神は生きておられて、必ず私の理解をも超えた解決を与えて下さる。それを信じて耐え忍ぶ人は幸いだ、と。この神様を信じる者は、現実をちゃんと見て、そして慌てないのですね。その逆が12節以下です。

「わたしの兄弟たち、何よりもまず、誓いを立ててはなりません。天や地を指して、あるいは、そのほかどんな誓い方によってであろうと。裁きを受けないようにするために、あなたがたは「然り」は「然り」とし、「否」は「否」としなさい。」

これは、自分でやってやるぞと神様を出し抜くな、という事ではないでしょうか。自分で宣言して自ら実行するというのは勇ましいですけども、それは神様の介入を信じないということですね。それは生ける神様を無いものとする。あなたがたはただ神様のみ前にあって、神様との応答に生きればよい、「然り(アーメン)」と生きるか、否と生きるか、いずれにしても、神様に聞きながら生きて行きなさいということだと思います。

### [3] 「あなたの罪は赦される」

12節にこういう言葉がありますね。「あなたがたの中で苦しんでいる人は、祈りなさい。喜んでいる人は、賛美の歌をうたいなさい。」ある人がこういう言い方を致しました。私たちは苦しんで愚痴をこぼしてもいい。しかしその愚痴を、神様に持っていくのが「祈り」だ、と。また、私たちは嬉しいことも、その恵みを下さった神様と一緒に喜びなさい。それが「賛美」だ、と。つまり、私たちは苦しみの日も喜びの日も孤独ではなくって、「今」を、主と共に(主の中で)苦しみ、喜ぶのだ、と言うのですね。これこそゴールを知っている人の生き方なのだ、と。

そして、私たちのゴールというのは、審判の日(裁きの日)でもあるのですね。私たちの命はこの日に向かっている。とても彼岸的なことです。これを見ないキリスト教信仰は、単なる社会運動です。社会運動や私たちの努力や行いでは神様の前に立つことなど出来ないのです。私はあの中風の者の癒しの物語を思い起こすのですけれども、主イエス様は、あの4人の友に運ばれなければ主のおられる場所に行けなかった病人(マルコ2章)を癒して下さいましたけれども、まず仰ったのは、「子よ、あなたの罪は赦される」でした。これは本当に福音だと思います。私たちは皆やがて主のもとに召されます。まだ全く安心出来ないこのコロナ禍ですが、ワクチンを接種されてちょっとホッとしますし、お金の補助金を頂く人もあると思います。それで当面の計算が出来るのは幸いなことだ

と言えると思います。けれども私たちがゴールについた時、一番必要なことはこれではないでしょうか？—「子よ、あなたの罪は赦される」。—私たちの代わりに十字架でその命を献げて下さった主イエス様がこの言葉を言って下さっている！ 私たちはこれを号令として、このレースを耐え忍びながら生きることが出来るのです。

#### [4] 教会は地上に咲いた神の国の小さな花

私は思うのですけれども、私たちの交わりはその**神の国の、地上に咲いた花**なのです。小さな花かもしれませんが、神様が種を蒔き、光と水で育てて下さる。それが**教会の交わり**です。ですからその交わりが神の国に相応しくあるようにヤコブは勧めるのです。14節～。「あなたがたの中で病気の人は、**教会の長老を招いて、主の名によってオリーブ油を塗り、祈ってもらいなさい。信仰に基づく祈りは、病人を救い、主がその人を起き上がらせてくださいます。その人が罪を犯したのであれば、主が赦してください。だから、主にいやしていただくために、罪を告白し合い、互いのために祈りなさい。正しい人の祈りは、大きな力があり、効果をもたらします。**」

私たちは不完全だから祈るのです。弱く不完全だから友を必要とするのです。祈りを必要としない人は誰もいません。元気そうに教会に来ている人も色々な試練や戦いがあると思います。まして、教会に来たくても来ることが出来ない人のため、また、今は教会から、神様から離れてしまっているような方は本当に祈りを必要としています。5章19～20節をお読み下さい。

「わたしの兄弟たち、あなたがたの中に真理から迷い出た者がいて、だれかがその人を真理へ連れ戻すならば、罪人を迷いの道から連れ戻す人は、その罪人の魂を死から救い出し、多くの罪を覆うことになると、知るべきです。」

ヤコブは、やがて来る神の国を、心の底から待望しながら、お互いの弱いを受け入れながら、今この時、神様が助けて下さるようにお互いのために祈っていかうと勧めているのです。今日の週報のコラムでIさんがこのようなことをおっしゃっていましたね。僕は神様に宿題をもらっている。誕生日が入学式で、神様に帰る日が卒業式だ。その時まで、自分の身を通して、全ての人が愛され、ありのままに生きられることを伝えられたらいいと。素晴らしいと思いました。自分の命の使い方が定まっている。丸山よ、お前はどうかんだ？ 問われているなと思いました。そしてお一人お一人がこの「神の国」の地上に咲く小さな花の交わりを形作っています。主がおられるから、年ごとに、季節ごとに、様々な花を咲かせて頂けるのです。イエス様に信頼しながら、この夏もご一緒に祈り合って進んでまいりましょう。

お祈り致します。